

大学生の結婚観と恋愛意識の関連

発表者：岩本 慧美佳

指導教員：中間 玲子

1. 問題と目的

近年「結婚していない男女」を意味する用語として、「独身」「未婚」という呼称から「非婚」「シングル」という言葉が多く使われるようになった（福島，2008）。広辞苑（2008，第6版）によると、「未婚」とは、まだ結婚していないこと、「非婚」とは、結婚しないこと、また、生き方として結婚しないことを主体的に選択すること、とある。結婚に踏み切れない原因は様々あるだろうが、なぜ、結婚自体を考えなくなってしまうのであろうか。

そこで、本研究では、結婚の可能性のある「未婚」ではなく、結婚する可能性のない「非婚」に着目し、非婚化の一要因を明らかにすることにした。そのために、本研究では“恋愛”と“結婚”のつながりを意識し、結婚へのイメージと現在の恋愛への態度がどう影響しているのかを検討する。

2. 調査方法

大学学部生 430 名に対して調査を実施し、回収したもので回答に不備がなかった 300 名（男性 147 名，女性 153 名）を対象とした。調査項目は以下の通りである。

- ①本研究では、結婚への意識として 6 つの恋愛に対するパターンを設定した（「A.現在の恋人と結婚したい」「B.いつかは結婚したいが現在の恋人ではない」「C.現在恋人はいないがいつかは結婚したい」「D.現在恋人はいるが結婚する気はない」「E.結婚する気はないが恋人はほしい」「F.結婚する気はない」）。
- ②結婚観、結婚相手の条件、結婚相手としての理想度を問うために、厚生労働省が実施した「少子化に関する意識調査研究：結婚の状況と結婚意識」調査の項目を参考に作成した。
- ③恋愛への意識や態度を検討するため、松井ら（1990）が作成したLETS-2(Lee's Love Type Scale 2nd version)¹を参考に項目を作成した。

3. 結果と考察

ここでは特に、現在の恋人と結婚を考えているか否かによる結婚観や恋愛への意識における違いについて報告する。そのため、「A.現在の恋人と結婚したい」「B.いつかは結婚したいが現在の恋人ではない」「D.現在恋人はいるが結婚する気はない」の 3 群の違いに注目する。

結婚観では、「A.現在の恋人と結婚したい」人の得点は、結婚に対して前向きな項目に対して得点が高くなっており、前向きではない項目で得点が低くなっていた。この結果から、A は結婚を積極的に捉えており、現在の恋人とも結婚を意識した交際をしていると推測できる。結婚相手としての理想度でも得点は高くなっており、相手の内面や、今後の結婚生活を考えるうえで必要になってくる条件を相手が

¹カナダの心理学者 Lee が提唱した恋愛 6 類型理論を用いた。

- ・ Ludus（遊びの愛）…恋愛をゲームと捉え、楽しむことを大切に考える。相手に執着せず、相手との距離をとっておこうとするため、同時に複数の相手と恋愛できる。
- ・ Mania（狂気的な愛）…独占欲が強く、嫉妬、憑執、悲哀などの激しい感情をもつ。
- ・ Pragma（実利的な愛）…恋愛を地位の上昇などの恋愛以外の目的を達成するための手段と考えている。社会的な地位の釣り合いなど、いろいろな規準を立てて、恋愛相手を選ぼうとする。
- ・ Eros（美への愛）…相手の外見を重視し、強烈な一目ぼれを起こす。恋愛を至上のものと考えており、ロマンチックな考えや行動をとる。
- ・ Storge（友愛的な愛）…穏やかな友情的な恋愛。長い時間をかけて、知らず知らずのうちに愛が育まれる。
- ・ Agape（愛他的な愛）…相手の利益だけを考え、相手のために自己犠牲することも厭わない。

満たしていることがわかる。「B.いつかは結婚したいが現在の恋人ではない」人と、「D.恋人はいるが結婚する気はない」人は、結婚についての将来設計は出来ていないようだ。また、BやDは、結婚をすることで、好きな人とずっと一緒に過ごしたり、一緒にいることで精神的な安定が得られるとは考えていないようである。

現在の恋愛については、AやBやDは、どのような恋愛のタイプなのであろうか。調査の結果、AはEros, Mania, Agapeタイプであり、最も恋愛に対して関与の高いタイプであることがわかった。BはPragmaタイプであると同時にStorgeタイプで、DはLudusタイプという結果が得られ、恋愛に対して関与の低いタイプであることがわかった。

4. 結論

BやDは、結婚観において、自分のことに関する項目に敏感に反応していた。具体的には、Bは結婚してからも一人の時間を大切にしたいと考えていた。Dは結婚をしてしまうと恋愛が自由にできなくなると考えていた。この結果からBやDは、結婚に対してあまり良いイメージを持っておらず、結婚をすると自分自身へのデメリットが多いと感じているように伺えた。結婚してからも、自分の時間やお金を制限されたくない気持ちが強いのかもしれない。

結婚相手としての理想度において、Bのように、結婚は望んでいても現在の交際相手を結婚相手として認識していない人は、相手に対して結婚相手として理想的ではないと感じている。逆に、Dのように、結婚を望んでいなくても、現在の交際相手に対して結婚相手として理想的であると感じている人もいる。このような交際が続くことによって、婚期が遅くなり、晩婚化や非婚化につながっていくのではないかと考える。

この問題を考えるにあたって重要になるのが、現在の恋愛に対する態度である。現在の恋人と結婚を考えている人は、Mania, Agape, Eros的態度であることがわかった。現在の恋人を結婚相手として認識している人は、恋愛をゲームや、地位の上昇のための手段として捉える傾向が低く、相手を気遣ったり、ロマンティックな行動をとったりする傾向が高いということである。現在Mania, Agape, Eros的態度で交際相手とロマンティックな交際をしている人は結婚が早く、Ludus的態度で恋愛を楽しんでいる人は結婚が遅くなると考える。結婚するためには、交際している者同士がMania, Agape, Eros的態度でなければ成り立たないと考える。交際しているどちらか一方がこれらの態度でなければ、結婚へはたどりつかないだろう。

結婚を希望している全ての人に交際相手がいたり、その交際相手との結婚を希望しているわけではない。非婚化をくいとめるためには、結婚へのメリットを未婚の若者が獲得する必要があると考える。それと同時に、交際相手と一緒にいることで得られる精神的安らぎや、ロマンティックな経験を経ることが重要になってくると推測する。

【主な引用文献】

・厚生労働省 2004 「少子化に関する意識調査研究：結婚の状況と結婚意識」

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/08/h0813-2/index.html>

・松井豊・木賊知美・立澤晴美・大久保宏美・大前晴美・岡村美樹・米田佳美 1990 青年の恋愛に関する測定尺度の構成 立川短期大学紀要,23,13-23